

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可 (毎月一回一日發行)

會學濟經學大國帝都京

# 叢論經濟

號二第 卷五十三第

行發日一月八年七和昭

## 論叢

滿洲國の財政及財政策 . . . . . 文學博士 高田 保馬  
經濟に於ける勢力 . . . . . 文學博士 高田 保馬

## 時論

變革期の社會政策 . . . . . 經濟學博士 石川 興二  
『購買力補給案』の諸問題 . . . . . 經濟學士 谷口 吉彦  
齋藤内閣の財政政策 . . . . . 經濟學博士 沙見 三郎

## 研究

總體經濟と個別經濟 . . . . . 經濟學士 大塚 一朗  
ゼンエーの統一貸借對照表について . . . . . 經濟學士 熊本 吉郎  
幕末の財政紊亂について . . . . . 經濟學士 大山 敷太郎

## 說苑

勤勞所得分配の實證的研究 . . . . . 法學士 毛里英於菟  
財政の社會學的根本類型 . . . . . 經濟學士 大谷 政敬

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

# 財政の社會學的根柢類型

大谷政敬

## 一 前 言

吾人が、學としての財政の權利を主張するには、常識の上で何時も、無反省に豫定せられて居る問題たる、政治團體の經濟とは何か？、即ち財政をして財政たらしめるものは何かといふ本質の問題をば論理的に反省することが必要である。

かゝる財政の本質をば、現象學的態度より考察して（註一）、財政とは、政治團體の需要配分並に手段調達の行動であるとし、而して、かゝる意味に於ける財政形成の種々な可能性、即ち類型の確立を論ぜる者にイェヒト氏がある。いま同氏の財政に就ての社會學的根柢類型の概要を述べれば次の如くである。<sup>1)</sup>

（註一）現象學から意識構造の根本分析と、そして其の分析に關聯しての對象的所與性を導き出すといふことを受繼

1) Jecht, Wesen und Formen der Finanzwirtschaft. S. 95 ff.

ぐが、しかし所謂純粹本質として把握される非現實的實在の現象學的な實體化には與みしない<sup>2)</sup>。

## 二、類型の構成

財政の最も普遍的な形態、即ち凡ゆる歴史的形成の可能性をば、財政の本質に従つて把握するといふことは、財政の基礎を規定し、且つ經驗的研究の諸前提を指示せんとする吾人の課題を充すものである。

歴史的に偶然な事實に膠着するのではなくつて、該事實を構成する精神作用の性質からして、先驗的に與えられるところの精神的客觀體の類型形成の問題は、先づ近世社會學の内部に於て明かな形態を窺ち得た。

社會形成の類型の發見は、就中テンニースの「共同社會と利益社會」といふ勞作である。實にこの勞作は、社會科學研究の發展に特異な地位を占むるものである。特に經濟生活を取扱ふ科學は、最近、經濟の諸形態をば、人間の根本態度の可能性に照應して限界付けるに至つた。この可能性は、テンニース氏の共同社會と利

益社會の區別で表現されることが出来る(註二)。

(註二) 問題の體系的敘述の最近の試論としては、シヤクの著書を擧ぐべきである。

シヤクは、經濟の形成形態をば、直觀形式たる、時間と空間、並に種々な歴史的時代に於ての「評價」の方法の呈示に因つて規定せんとすの試をなした。

凡ゆる從來の經濟形態に對して試みられた最近經濟の獨特な構造と地位の認識は、本質上テンニース氏の採れる新しい態度の成果である。かくて、同氏の區別した想本思想に基いて、財政の諸形態を規定する試みがなし得られる。

## 三、傳統的財政と合理的財政

人間の共同生活の形成の二つの可能性(共同社會と利益社會)に照應して、財政に二個の根本形態が存在する、即ち財政の構造は、傳統的性格か或は合理的性格かを擔ひ得る。

而して、利益社會は、共同社會なる先行形成を前提とし、歴史的には共同社會から生成したるものである

2) Jecht, a. a. O. S. 31. Die dritte Bemerkung.

3) Jecht, a. a. O. S. 97

4) H. Schack, Wirtschaftsformen, Grundzüge einer Morphologie de Wirtschaft, Jena 1927.

といふ一定の内的關係の下に相互とも立つて居ると同じ様な聯關が、傳統的財政と合理的財政との間に確立せられ得る。この傳統的形成の時間的且つ事實的先位は、吾人の精神構造自體の究極の事實に結び付いて生ずるものである。正にこの事實は、換言すれば、現象の實質的制約の經過での財政的形成の後起形態として合理的財政の存するといふ事實は、傳統的財政及び合理的財政なる兩形態の種々な本質を了解する出發點をなすものである。

内的理法即ち事物によつて強制された「合理性」は、經濟生活が先づ原始人の本能的反應存在から現はれるその瞬間からして、經濟生活の客觀的精神聯關を支配する。吾人は、かゝる意味の合理性をば、シュブランガーに從つて、「包藏された合理性」と名付けることとする。蓋し經濟の有目的性は、文化のこの最初の時代に於ては殆んど稀れであるからである。この時代に於ける經濟行動の決定は、たゞ因習なり習慣として傳承された經濟經驗に基いて居る。かくの如く傳承的因習

の強制の下に支配されて居る例をばいま尙ほ農家の經濟に見ることが出来る。

右の傳統的經濟の特徴が、財政的形成に於て繰返えられる際、吾人は傳統的財政といふことを得る。この財政に於ける需要の配分は、たゞ久しきに亘る史的發展に於て生育し、且つ漸次形成された因習に基いてのみ實現される。そして政治團體の需要の大きさは、明かに認識された公共必要 (necessitas publica) によりて定められるのでは無くつて、主權者の自然意志による要求によつて定められる。實に主權者並に彼を圍繞する役人の個人的需要は、政治團體の需要と一致して居る。次にかゝる需要を充當さす手段は、自己經濟の方法によつて、直接に生産するか、或は從屬せる個人經濟から何等の合理的秤量なしに調達するかである。かの計畫的家計の不備、並に組織化された財務行政の缺如は全く傳來と因習に基いて居る財政的表現である。

前述の傳統的性格を有する經濟並に財政と對立してではなしに、かゝる經濟並に財政からして合理的な形

態が展開する。傳統的時代に於て包藏されて居た合理的の核心が、今やその包被を破り、そして次第に經濟の全容器を充し、主觀的體驗の構造に於ては、精神的作用が、一層益々その衝動的基礎から解消して、對象的方向を取るに至る。より具體的に言へば、利潤獲得といふ合理化による資本主義的企業の成立は、傳統的時代に於ける經濟圏であつた共同社會を解消せしめて、世界經濟領域の形成へ導くに至る。

この合理化は、財政にも反映し、政治團體の公共必要は、それ自體として體驗せられ、主權者個人の必要とは截然と區別せられるに至る。そして、かゝる需要の充當手段は、合理的標準に基いて調達する租税が主要部分を占め、他方、公的信用の發展は、永遠公債の可能を齎らし、從來の傳統的財政に於て見た様な、主權者個人の色彩が消失することとなる。斯くて、益々錯綜した豫算制度の形成並に習練を積んだ官吏からなる行政部の必要を促かすようになった。かゝる特性を有する財政をば吾人は合理的財政といふを得るであらう。

#### 四 結 言

前述に於て、吾人は、財政行動の最も普遍的な特性に於て、二つの類型を素描したのであるが、次に生ずる課題は、この素描に血を通はせ肉を纏はして、一層の具體性を充たすこと即ち傳統的なるものと、合理的なるものとを史的過程に於て證明するといふことである。だがしかし、このことは、本論以外に屬する事柄であるから割愛し、たゞ次のことを附言するに止める。

先づ傳統的財政は、族長的政治團體及び封建的政治團體に於て具現して居り、合理的財政は、中世都市に其の萌芽を現はし、近世官僚國家に至つて全貌を呈露して居る。